

ENV200 環境教育論

2年 3,4クォーター

担当教員	市川 智史
授業形態	講義
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニング科目
単位数	2
曜日・時限	集中

授業概要

環境教育の歴史を俯瞰し、持続可能な社会をめざす環境教育の考え方（目的・目標、内容、方法）、および持続可能な社会の視点について講義を行うとともに、環境教育の主要な手法である参加体験型の環境教育プログラムを体験的に学び、グループ・ワークを通して、福井における地域環境教育実践のプランニングを行う。

到達目標

- ①環境教育の概略史、環境教育の考え方、および持続可能な社会の視点を理解する。
- ②参加体験型環境教育プログラムを体験的に学び、その考え方や手法を理解する。
- ③地域環境教育実践のプランニングを体験的に学び、企画立案能力を養う。

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

市川智史（2016）『日本環境教育小史』、ミネルヴァ書房。
佐藤真久他（2017）『SDGsと環境教育』。学文社（刊行予定）。
福井県環境政策課（2000）「環境学習ガイドブック（福井県）」<http://www.erc.pref.fukui.jp/sogo/d215/>
福井県環境政策課（2012）福井型環境教育教材「エコワークブック」<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyoe/ecoworkbook2.html>

授業の方法

教室内での講義、室内での参加体験型環境教育プログラムの体験、およびグループ・ワークを行う。

成績評価

課題カード、ふりかえりシート（提出用）、企画案の発表、および受講態度を総合的に評価する。

成績

- 30% 課題カード（第1日）
- 30% ふりかえりシート（提出用）（第2日）
- 30% 企画案発表（第3日）
- 10% 受講態度（全日程）

授業スケジュール

〔第1日〕

- 第1・2時：環境教育の歴史を俯瞰する。1960年代後半の状況を踏まえ、環境教育の創成時代、普及時代、枠組み拡大時代の3つの時代に分け、時系列で解説する。
- 第3・4時：持続可能な社会の視点をとらえる。「持続可能な開発」概念の意味を踏まえ、持続可能な社会の視点を大きく2点から解説するとともに、簡単な演習を行う。
- 第5時：環境教育の学習内容、方法について解説する。

〔第2日〕

- 第6・7時：アイスブレイキング、参加体験型環境教育プログラムを体験する。

第8～10時：グループ分けを行い、グループで行うプログラムを体験する。

〔第3日〕

第11～13時：前日と同じグループで、福井での参加体験型環境教育実践のプランニングを行う。

第14時：各グループの企画を発表する。

第15時：3日間全体のふりかえりとまとめを行う。

〔備考〕

受講者の人数やディスカッションの進行具合により、講義・演習の内容を変更したり、前後させたりする場合もある。

事前・事後学習

事前：福井の自然環境、生活環境、地域文化等、地域環境教育実践プランニングの素材となりそうな場所や事柄についての見聞を広めておくこと。<http://www.erc.pref.fukui.jp/sogo/d215/>、<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyoe/ecoworkbook2.html> を参考にしてください。